

北海道弟子屈町における地域公共交通活性化・再生総合事業 ～ 環境保全・観光振興と連携した地域交通体系の構築 ～

21～23年度

弟子屈町は、摩周湖、屈斜路湖等の景勝地を有し毎年多くの観光客が訪れるが、通過型観光が主流であるとともに、その多くがマイカーを利用するため、排気ガスによる自然環境への負荷が懸念され、また、高齢者等の貴重な交通手段である路線バスも近年利用者数は減少傾向であることから、環境負荷の小さい摩周湖アクセスの確立、生活路線の維持に向けたバス路線の再編・ダイヤの見直しによる利便性の向上・観光交通としての活用、ボランティアガイド体制の充実と組織化を行うことにより魅力ある公共交通の創出と利用促進を図り、環境にやさしく、生活交通と観光交通が一体となった地域交通体系を構築する。

【弟子屈町地域公共交通活性化協議会】

弟子屈町、学識経験者、JR北海道、バス会社、商工・観光関係者、住民代表、国交省（釧路運輸支局）、環境省（オブ）、林野庁（オブ）、開発局（オブ）、道庁（オブ）、道路管理者（オブ）、北海道警察（オブ）、タクシー・レンタカー協会（オブ）

事業の概要（22年度）

①摩周・屈斜路環境にやさしい観光交通実証運行（自動車事業）

JRダイヤに合わせたバス実証運行。 **9,828千円**



②『弟子屈2Daysエコパスポート』の発行

JR（川湯温泉駅～摩周駅間）及び町内全ての路線バスが1,000円で2日間乗り放題。多様な特典付き。
1,670千円



国土地理院発行20万分の1地勢図より

③駅ボランティア インフォメーションセンターの設置・運営

町民自ら『エコパス』を販売・説明。観光案内等も行う。
1,019千円



④サイクル＆ライドの実施

「エコパスポート」購入者に駅等でレンタサイクルを無料で貸出し。**228千円**



⑤公共交通利用促進・啓蒙活動

ノーマイカーデー実施。ベロタクシーによる啓発活動。**378千円**



22年度 導入への プロセス

平成18年度より『公共交通活性化総合プログラム』を活用して摩周湖へのマイカー流入規制を実施する等、今日に至るまで一貫して『環境にやさしいまちづくりの実現』という明確な目標の下に、様々な取り組みを実施してきた。

旅行者の利用増加のためには事業のPRが鍵と考え、旅館組合員による旅行会社への個別PRやアンケート結果を踏まえホームページ等インターネットによるPRを積極的に実施することとした。

法定協議会での合意はもちろん、町民の合意が重要であるため、町広報誌等により町民への説明に努めるとともに、町民の意見が自治会連合会等を通じて法定協議会に反映される仕組みを設けた。

商工会や旅館組合等による傘下会員への協力要請や町民自らがボランティアガイドとして事業に参加する等、**公共交通機関による来訪者を町全体で「おもてなし」する体制の構築**に努めた。

22年度 事業の 効果

地域との連携による利用促進

『エコパス』購入特典として、町内計64施設の飲食店・宿泊施設等が代金の割引サービス等を提供するとともに、各種のPRを実施した。このような取り組みにより、道東全般で観光入り込みが伸び悩み本町の観光入り込みも前年度比率で95%と前年割れとなっている状況下にも拘わらず、実証バス運行期間中(平成22年7月17日～10月11日までの87日間)において**2,612名の利用があり**、**昨年度実績より16%増の販売実績**を残した。また、**町民自らが販売等を行う**ことにより、利用者からの意見を直接聞くことができ、様々な改善策やアイデア創出に結びつき、結果として利用者へのサービス向上意識の醸成が図られた。

啓蒙活動による利用促進

環境にやさしい乗り物として注目されている『ペロタクシー』に着目し、「環境保全と公共交通利用促進」の啓蒙を兼ね一連の事業の広告宣伝を目的にPRラッピングを施して札幌市内を7月11日～30日(20日間)走行させた。注目度の高さから、広告活動としては効果があった。

利便性の向上と観光利用の促進

サイクル&ライドは、計30台の自転車を用意し、一部のバス路線で**バス車両への自転車の搭載を可能**にするなど利便性を向上させた。このような取り組みにより、7～10月の4ヶ月で458台(エコパスポート購入者の17.4%が利用)の貸出し数があり、概ね好評であった。昨年度、JR川湯温泉駅で貸出す自転車が不足したこともあり、貸出し自転車の総数や配置を見直すとともに、**サイクリングマップの作成・配布**を行い、利用者が迷わずに町内を周遊できるようにするなど、更なるサービス向上を図った。また、利用者アンケートでは、97%の『エコパス』利用者から総合評価として「満足・やや満足」との結果を得ているとともに、**『エコパス』がなければ「来町をやめるか、自家用車による移動をした」と回答した利用者は33%**におよび、公共交通利用促進、地域活性化に効果が得られた。なお、バス実証運行費を加えると『エコパス』の収支率は21.8%程度であり、今後、**収支率を改善**し、持続可能な事業とするための仕組みづくりが課題となっている。

次年度 以降

環境にやさしい地域交通体系を構築し、関係者が一体となって地域活性化を図る。

アンケート調査では、約23%の利用者が『エコパス』がなければ「弟子屈町観光はしなかった」と回答し、そのうちの**約70%が町内の宿泊施設に宿泊**していることから、**域内消費の拡大**による地元の経済への波及効果は高く、町民からも事業の継続を要望されており、今後も更なる利用促進と来訪者増加に取り組んでいく。

ボランティアガイドは、新たな**町内雇用の創出**の場としても期待されており、将来的には体制の充実と組織化を行い、事業化を行っていくことが課題である。

アンケートの中で要望の多かった「屈斜路バス路線エリアの拡充(**屈斜路プリンスホテル～美幌峠区間**)」に併せて、周辺観光地との連携を図り、公共交通の共同運行や女満別空港とのアクセスの実現に向けて検討を進める。